

私はまだ、大きな地震などの災害にあったことがありません。だから、被災者の方々の気持ちを容易には想像できません。けれども、震災の映像を見たり、被災者の方の話を書くことで、いろいろな人たちの思いにふれることができました。

まず、被災して亡くなってしまう方が思い浮かびました。「当たり前」に寝ていたら、ゆれてたおれた本棚や家屋の下じきになってしまった…。ある日、突然命をうばわれてしまった人のことを考えると、悔やんでも悔やみきれません。次に、その被災して亡くなった方の家族や友達の方の思いを知りました。「当たり前」に過ごしていたら、突然家族や友達が亡くなってしまう…。自分の大好きな人が急に亡くなってしまうなんて、考えるだけでも辛いです。それを実際に体験した人は、一生忘れることができない怖い体験だったと思います。特に、映像で、お母さんの遺骨を拾っていた中学生の男子を見て、同じ年れいなので感情移入して、とても辛い気持ちになりました。また、水がなくて火を消せない消防隊の人や、がれきをとけることができない家族は、自分が何もできない状態が、とても辛かったと思います。

ここまでいろいろな人たちの気持ちを考えましたが、ここで大切なのは、これが自分の身にも起きるかもしれないということです。今、この文章を書いている最中にも地震が起きて、自分が死んでしまうかもしれないし、家族や友達がいなくなってしまうかもしれない。そのことを、1.17以外の日にも頭に入れていないといけないと感じました。私たちにできるのは、被災者の方や新聞記者の方が伝えてくれたことをこれからの震災に活かし、伝えることだと

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

思います。

自分たちも大変な中で新聞を発行して神戸の人たちに情報
報を伝えるのがすごいと思ってきました。早朝に起きた地震
で、なので、ほとんどの人は寝ているし出勤もしていないか、と
というのが唯一良いことや、みんな「おはよう」と思っています。
この、阪神淡路大震災がもし朝7時〜夜にかけての時間
に起きたとすれば、崩壊した建物に残された人は
多々と思うので、実際に起きた地震の死者を上回るんじゃないか
んじゃないかと思ってきました。1月17日という寒い真冬の中で、ストー
ブなどの暖房器具を使っている人も多々なので、火災が次々
と起きてその火事で命を失った人もいるので、自然災害
がどれほど悲惨なのか…というのを、DVDと金居ア
ンの話を聞いて改めて感じました。同じ年齢の人が
母の遺骨を探しているシーンや、屋根の下に埋まっている
人を必死で探しているシーンが特にグッときました。
救助が追いつかない状況下から、呼びかけに応
答がある人を優先すると言われた人の気持ちには、どなたか
悔しかっただろう…と思ってきました。尾崎書は、
災害が少なくて自分達もほとんど経験してこなかった
ので、普段から大きな災害に備えて、正しく行動できるよ
うにしたいです。家に大人が居なくて私と妹2人だけ
だったから、妹の命を守る為に何が出来るか、
冷静な判断をしていたんです。いつ起ってもおか
しくない震災への対処の仕方をお家で話し合っていたんです。
忘れてはいけない1.17を次の世代に伝えてほしいです。

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

まず、金居さん、お忙しい中、講演してくださりありがとうございました。

僕は、阪神淡路大震災を知って「モリ」下した本や新聞、そしてニュースなどで「1.17」をよく聞くので、理解し始めたと思っ
ていました。だけど、被災者の方から、直接話を聞くと、現場を
見てないと、わからないことや、震度7の怖さは、全て経験
しないとわからないことだと思っ。そのほか、大変な時でも、毎日
新聞を出し続けた事は、尊敬する、中々出来ない事だと思っ。
実際、僕のお父さんも、当時神戸に住んでました。当時の話を聞
くと、「何があったのかわからない」と教えてもらい、その後
に、「新聞が助かった」と、だから、今回のNIEで教えてもら
ったことは、無駄にはせず、両親と話し「もしも...」と考えておきた
いです。最後の方に、「もしもコロナ過だったら密だ」という話、「もしも...
は、大切なんだと、気がきました。

遺骨を集めてた少年を見た時、写真をとらない方がいいという
のは、重たかったと思っ、なのに、写真をとった...、金居さんは、後世に
伝えるという強い気持ちがあったんだと思っ、僕もそれくらいの
決断力を見習いたいです、神戸新聞は、どんな状況でも、写真
をとって、僕たちのように、なにもしらない子達に伝えるべくと
したんだな-と思っ、それをぼく達も受けついで
行こうと思っ。

今回は誠にありがとうございました。

この事は、妹などの、もっと若い世代に話していきます!

ありがとうございました!

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

映画で見るのと、実際に撮った写真を見ながら説明して
もらうのとでは全然ちがって、映画では自分で苦しさを見取って
言葉であらわせないくらい苦しさと後悔でいっぱいだったと十分伝わってきたけど、言葉の一言一言、写真1枚1枚
には思いがこめられている、写真では信じられないのがいくつも
ありました。絶対に倒れないと言われていたという高速道路
が倒れ、水がなく燃えつつけているのを指す写真、本当に
もうどうすることもできなくて、ただただ苦しからたろうと思います。
阪神・淡路大震災の日も後日も神戸新聞さんは例え木屑が
こわれようとも、みんながまとこいるから、みんなは神戸新聞を必
業としている！と新聞を出そうと残っている電話で京都に電話を
かけなんとしてでも新聞を出してやる！と言う思いにとても、感動
しました。金居さんに見せていたいた母親の遺骨を探しづける
少年の姿は懸命に生きようとしているのをすごく感じました。
もし自分ならと考えるのは失礼かもしれませんが、もし自分なら、家族
が1人でもこの世を去ってしまうともう立ち直れないと思います。
だから私は本当に言葉で表すことのできないくらい尊敬をしています。
屋根の下に女性1人がいます。と言う紙はとて思いが苦しくなり
ました。救助の優先は応答がある人と言うのは、しかたないこと
なのかもしれませんが、でも、救助かにはまにあわなかった人ほとても、
苦しからたと映画で感じました。救助は応答がある人からと言うの
は家族にとって、とて絶望的だ、たと思います。ここにいると分か
っているのに助けることができないと言う悔しい思い。阪神・淡路
大震災での人々の気持ちを私のまた感じた事のない感情だ、と

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

思います。これからはちと地震についてのことを深く学んでいきたいです。

地震というのは、い、しゃんぞの気持ちに不安にさせたり、物を破かいしたりするんだなと思いました。金居さんのお話を聞くことが今まで知らなかった事だった。被災者の方にしか分からない事がたくさんあると分かりました。そういう大切な被災者の事にしか分からない事を、次の世代に伝えるのは私たちがだけだと分かりました。次の世代に伝えていかないと、震災が来たときに、おにも出来なくなります。やはりおにも出来ないで死者や、負傷者が多く出て、大変な事になってしまいます。今まで多くの昔のことが伝えてきた、教訓や、教え伝えるを途絶えるということになってしまします。伝えるという事は大事な事だと気が付かされました。今回の授業を通して分かる事は、震災が起きる前から、被難が"すく"に出来るお防"バック"を作ったり、お地震が起きるか分からないので、普段おている部屋の安全確認をしておくという事でお他にも、家族と被難場所をどこにするのかを話しておいたり、被難ルートを決めておくことも大切だと分かりました。金居さんがおっしゃっていた通り、お水やお缶は身に付けておくといいと思います。実際に阪神淡路大震災の被災者のおおラマの金居さんにお話を聞く事ができて良かったです。今日、学んだ事はこれからのお時に使えておきたいです。おかげさまで。ありがとうございました。

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

今日は、金居さんが忙しい中、来てくださり、本当に感謝しています。阪災・淡路大震災の話やニュース、重傷画などを見ると、心が痛くなり、涙がでてきてしまいます。特に母の遺骨を丁寧にに入れていたのは本当に泣けました。今年行っていた「がんばろう、1.17」をニュースで毎年見えています。それを見ると、震災の事を思い出してきます。それでも、がんばろうとしている兵庫県はすごいと思います。1月19日に、兵庫芸術文化センターに行きました。そこは震災の復刻のシンボルと聞いています。とても美しくびっくりしました。やはり兵庫県はすごいと思います。今、南海トラフが来るといわれていて、とても怖いです。でも、地震はなくせなくても、被害は少なくてきます。「防災・減災」という言葉を忘れないようにしたいです。5年生が6年生の時に「阪災防災未来センター」に行きました。そこで、阪災・淡路大震災の映像をみたり、津波のことを勉強したりしました。やはり地震は怖いし、死ぬ確率があるので、日頃から、地震のことを勉強して、ひたし訓練などをがんばっていきたいです。地震はできるだけなくなっしてほしいと思います。

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

私は、今まで小学校の頃にも授業で阪神・淡路大震災の事を聞いたりしていたので、知っている事がけっこうあると思っていたけれど、今回「神戸新聞の7日間」を見たり、金居さんの話を聞いて、知らなかった事を知れました。「神戸新聞の7日間」でどれだけの阪神・淡路大震災が影響がすごかったのが実感しました。神戸新聞の人は、新聞がうくれないうちでも必死につけていて本当にすごいと思いました。地震後は精神状態が不安定だと思ふのに、なんとかして新聞をつくらうとしているのを感じました。カメラマンの人でも現場で写真を撮る時に「とるな！」と言われて、辛いのに泣きながらも、とる場面にくるときました。私がずっといびに残っている場面も、少年が金居さんに「ぼくのお母さんと言つて骨を見せた場面です。本当にしょう激を受けました。その写真を撮る時に金居さんが「ごめんなさい、ごめんなさい」と号泣しながら言っていた場面が印象的です。私は、26年前は生きていたからこそ被災者の人の気持ちばかりませんが、今回金居さんが話をしてくれたことや「神戸新聞の7日間」を誰かに話をしたいなと思つています。日頃から、震災に備えて自分できちることを見つけたらいいと思いました。

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

“地震”が私たちに及ぼす被害は、とてつもなくおそろしく心に深い傷を抱かせるということが、ドラマで金属さんの体験談で身にしみて分かることが出来たと思います。ですが、本物の阪神・淡路大震災は、はるかに私の想像をこえるものでした。金井さんに、「ドンッッ!」といきなり、言われた時は、め、ちゃび、くりしました。これが、震災が起きた当日の一番初めの音だ。たと聞き、ねている人もこの音で起きたたろうし、私だ、たら、何が起きているのか頭の中で整理できずに、ただただ母に指示されるまま行動していったと思います。それに、今日の話聞いたことを母や父に言ったら、「ウチは大井戸公園、南武中にまおは逃げらんやで」と両方に言われました。私の家では決まっていたけど、自分自身は知らなかったのだから覚えておこうと思います。「神戸新聞の7日間」の中の女性の、少年が母さんを探していると言っていて、骨を探しているシーンで私はしょうげきを受けると共に、かき涙してしまいました。いつも通りの日常、いつも通りの家や友達、いつも通りの会話などの、“普通”がどれだけ、私達には大切で失ってはならないということに、気がさせられました。しっかりと地震に備える準備をしていこうと思います!

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

「神戸新聞の7日間」と金居さんの話を聞いて阪神淡路大震災が「これほど」おそろしいのかということと、改めて気がさせられました。阪神淡路大震災は、自分が思っていたよりも被害は大きく多くの方が「せいにな」ということを映画や金居さんの話を聞いてとても心が痛くなりました。自分達が生まれる前の26年前にこんな悲しいことが「おきていたんだ」と思ったが、このことはどの時代もどの世代にも伝えていかねければならぬことなんだと思いました。

そして、もしそういうことがあつたときは金居さんが教えてくださつた1週間分の食料や水、笛やライトなどを準備しておこうと思つていました。地震やつなみなどの災害が起つた場合は、「どこに避難してどこに集合するのかをきちんと家族で話し合つて決めておこう」と思っていました。

金居さんはとても熱心に話して下さいたのもあるし、たくさんの方が「阪神淡路大震災で命を失つた」ということを忘れないようにしようと思つていました。もし、災害がおこつた場合は今日聞いた話を参考にしていかにしていいかと思つていました。1.17は全員で語り継がなければいけないと実感しました。

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください

3回のNIEの授業を通して、阪神淡路大震災のことが神戸新聞の人たちの努力により、私たちに伝わっていると感じた。神戸新聞の人たちは、けがをしていたり、悲しい思いをしているにもかかわらず、私たちのために情報を届けようとかんばってくれていたんだと分かり、とてもすごい。「神戸新聞の7日間」を見て、阪神淡路大震災について、詳しく知ることができた。私が一番印象に残っているところは、「とらな！」と記者さんが言われたところだ。情報を届けなくてはいけないと分かっているのに、死んでしまっている人をと、とてもいいのだろうか、私もすごく考えさせられた。それでも記者の人たちは、その壁を乗り越えて、悲しさを和らぐことができる温かい新聞を作ってくれたと分かり、私も温かい気持ちになった。約10年前の東日本大震災のとき、私は東京にいて、大きなゆれを体験した。私は大きな影響はなかったのですが、震源地付近ではたくさんの方が阪神淡路のときのように、家に押しつぶされたり、津波で流されたり、助かっても悲しみや苦しさにおそわれ、心を傷めた人がたくさんいたんだと分かった。私はその中でも生きていられたのは、いた場所もよかったけど、母と一緒にいてくれたからだと分かった。生き残れた一人でもあると思うから、私が大震災のことを伝えないといけないのではないかと分かった。また、何年後、何日後かも知れない大震災に向けて、もう一度大震災のことについて学び、ひなんできるように準備をしておきたい。

疑問に感じたこと、知りたいことがあれば書いてください